

「2024年国立台湾大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学法学部1年 竹内 仁子

① 学習成果

私は海外に行ったことが無かったので、ずっと行きたいと思っていた。留学に行きたい気持ちは強かったが、まずは短期留学から行きたかった。

3週間海外に行けて、私の初修外国語である中国語の勉強ができるこのプログラムは私にぴったりだった。文系の1回生である私は来年も中国語を履修しなければならないので、来年の授業が少しでも楽になればいいと思い中国語圏を選んだ。こういう人は他にもいるだろうと思っていた。

しかし来年も中国語を履修しなくてはいけないのは、今回の参加者の中で私だけだった。みんな履修など関係なく中国語を学びに来ていた。その意欲の高さを私も見習いたいと思った。

同じ京大の参加者から学ぶことも多かったが、日本以外の参加者や日本の他の大学の参加者との交流からも多くの学びを得られた。日本以外の参加者とは英語でコミュニケーションをとったが、自分の英語スピーキング能力の無さを実感してしまった。

② 海外での経験

台湾は日本と常識が違っていた。手を挙げないとバスが止まらなかったり、食堂は紙に書いて注文したり、そもそもメニューを見ても何なのか分からなかったり…わからないことだらけで戸惑ったが、だんだん慣れていった。日本と違う常識に触れたことで、今まで当たり前だと思っていた日本の常識を見つめなおすことができた。これは海外でしかできないことだと思う。

また、京大卒業生の方の紹介で立法院の見学に行かせていただいたことは、とても良い経験になった。立法院で台湾の政治システムを紹介する動画を見せてもらった際、日本との相違点を考えながら見ていたのだが、自分が日本の国会について全然知らないことに気づいた。法学部生なのに自分の国の政治も説明できないのか、と自分が恥ずかしくなった。1年間法学部である程度学んできたつもりだったのだが、まだまだ足りないと感じた。立法院に行ったことで、2回生以降の法学部での勉強のモチベーションが大幅に向上した。

③ プログラム内容

中国語の授業は少人数で行われ、スピーキングが中心だった。京大の授業では人数の関係上なかなか練習できないスピーキングを強化できてとてもよかった。

また、台湾の文化について英語で行われる講義もあった。どれもとても興味深い内容だったが、自分の英語リスニング能力が足りないことが悔しかった。聞き取れはするが先生の話すスピードが速すぎて理解が追い付かないのだ。中国語だけでなく英語も強化する必要性を感じた。

また、講義だけでなく体験活動もあった。台湾の伝統工芸品を作ったり、お寺や公園に行ったり、台湾茶を淹れたり、座学だけでは得られない経験もできた。

④ 進路への影響について

今回の留学で、長期留学への興味はより一層高まった。しかし必ず行くとは言い切れない。

台湾大の総合図書館はとても大きかった。他にもキャンパス内に図書館がいくつもあって、こんな環境で学べるのはいいなあと思った。しかし、京大にだってこんなに大きな附属図書館といくつもの図書館がある。今私は京大の図書館を使いこなせていないのに、台湾大に行ったとして図書館を使いこなせるのだろうか。

まずは京大での学習を見直すところから始めたい。そのうえで海外でしかできないこと、海外の方が適していることがしたくなったら留学したい。